

慶蔵院寺報

# 八公孫樹

2021年7月発行

第114号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726



男性詠唱隊の皆さんの練習風景 西里定一 画

## われら男性詠唱隊

六月の第三水曜日が男性詠唱隊の一四二回目、練習日。今回の寺報の扉絵のため西里さんの取材を受けることになった。欠席者は無し。総勢九名のメンバー。春秋の彼岸、花まつり、お盆の初盆送り、成道会、涅槃会などの法要の際の詠唱奉納は定着し、なくてはならない存在になっている。



それだけではない。恒例となった年一回の参拝旅行の計画と当日の運営、接待、司会からバスの中の点呼まで、旅行一切を切り回してくれているのも男性詠唱隊である。昨年につづき今年も実施できないでいることが残念。コロナが続くから仕方がない…と練習に励んでいる。写真の際、マスクを外すかどうか…との声も出たが、普段どおりに描いてもらおう…とマスクをつけたまま写真に納まった。本堂で一列に並んでの練習風景なのだが、西里さんがそれでは全員を描ききれないからと構図上、上記のように描いて下さった。

メンバー一人一人はカラオケの上でもなかなかの名手である。持ち歌を持っていて、特徴があり、上手である。この人のこの歌を聴いてからでない…と今日は終わらないと制限時間まで、交代で歌いまくる。最年少のメンバーは、なんと春日八郎会の三重県支部会長でもあるのだ。この恒例の宴会もコロナで止まってしまっている…。やせ我慢ではないが、詠唱の方が、カラオケよりずっとおもしろい。内容があって、ためになる。もっとたくさんの人に詠唱隊に入ってもらいたいものだ。お経の内容も詠唱の中でわかることが多い…などと語り合っている。四名が元近鉄マン。だから時間に正確、連絡網も完璧。チームワークが抜群で、一丸となって寺を支える縁の下の実働部隊となっている。

今年も十月末の大念仏には、下小俣町内の山の神さん、庚申塚を回る念仏行脚、詠唱隊長を先頭に、コロナ風邪を吹き飛ばしてほしい。

# 7月の行事予定



7日(水)	写経 映画会	午前10時～ 午後7時半～
14日(水)	七月盆棚経参り(信徒様) 伊勢市内 念仏会	午後7時半～
15日(木)	七月盆棚経参り(信徒様) 小俣町内	日程は個別に連絡させていただきます。
16日(金)	七月盆棚経参り(信徒様) 玉城、明和、松阪方面	
21日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生 男性詠唱隊	午後1時～ 健康教室・歩き方教室 参加費 500円 午後7時半～
28日(水)	読経会	午後7時半～
25日(日)	戦没者慰霊	午前11時～
8日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費 1000円
予約があれば水曜日	キサンシンキングボウル ヒーリング	要望に応じて30分～60分

## 慶蔵院守知識

⑪

### 涅槃図の修復 その3

涅槃図の中には、八本の樹が描かれています。実際には繋がっている根から二つに分かれているので八本に見えますが、四本の樹です。この樹のことを沙羅双樹(サラスジュ)と呼びます。

お釈迦様の入滅のときに白い花を咲かせて鶴が羽を広げたような形になりました。

日本でサラソウジュと呼ばれているのはナツツバキのことで、昔、鳥羽の青峰山のお寺にあると聞いて見に行ったことがあります。大樹でした。ちょうど白い花を咲かせていた時期で、白い花が丸く膨らんで、ポトンと落ちてきて、何かはかなさを感じました。

庫裏を増築した際、植木屋さんをお願いして庭の隅にナツツバキを植えてもらいました。花が椿に似ているだけで、樹や葉は椿とは似ていません。幹は皮がはがれてきて百日紅のようになってきて、思わず触ってみました。ります。この樹が日本でなぜサラソウジュと呼ばれるようになったかはわかりませんが、白い花と散り方のはかなさが涅槃につなげられたのではないのでしょうか。

涅槃図には猫が描き込まれているものといえないものがあります。慶蔵院の涅槃図には、猫が描き込まれています。座って少しうつむきかげんに遠慮しているように描かれています。模写されたとありますから、そのもとなつた涅槃図とも出会いたいものだと思えてきます。次回には六字名号佛の軸について話したいと思います。

(栄子)



## 浄土宗新聞を無料でお渡しします！！

### 7月号読みどころ

「浄土歌壇」の巻頭三句目に奥田さんの下記の短歌が「評」入りで掲載されています。寺世話人さんに配ってもらうことになった浄土宗新聞の配布。その際の印象を歌にして切り取ってくれました。知恩院発行の「知恩」に掲載された句を毎回紹介していますが、今回は浄土宗新聞の掲載を紹介します。ぜひ、ご覧下さい。。

二面下に大正大学四年生の学生さんが「松本清張賞」を受賞したとの記事がでています。この賞は、「良質の長編小説を表彰する公募の文学賞」です。748編の応募作品から選ばれました。

「賞をとれる手応えはありました」と語る自信作のようです。楽しい社会派の作家に成長していってくれば…と願い、応援したいと思います。5日に文藝春秋社から単行本として刊行されるとのこと。著書名は「万事快調」。

五面上、仏教でカウンセリング「愚痴っぽい自分、どうしたらいいの…」参考に。七面の象の話も興味深い。

## 今年から信徒さんの棚経参りは 7月にさせていただきます。

お葬式をさせていただいたものの、様々な事情で檀家には入られずに法事や棚経をさせていただいてきたお家は、「信徒」として対応させていただいてきました。寺世話人さん担当がありませんから、公孫樹などのお寺からの連絡はありません。ただしお盆の棚経の日程だけは、こちらからお伝えしてきました。

昨年は、コロナ禍の中、「信徒」さんの棚経中止をお願いしました。東京住まいの副住職の帰郷がままならぬ状況の中、今後のことも考えて、今年から「信徒」さんには七月盆にて棚経参りをさせていただくようにお願いしたところです。檀家さんには従来通り、八月に棚経日程をお伝えさせていただきます。

### ☆お願い・お知らせ☆

※お盆の塔婆のお申し込みは、7月12日(月)までにお願ひ致します。

※8月のお盆の行事

8月1日～8日 初盆参り

初盆のお檀家さんは、ご希望の日時を20日までにご連絡ください。

8月9日～14日まで棚経参り

8月15日 お施餓鬼

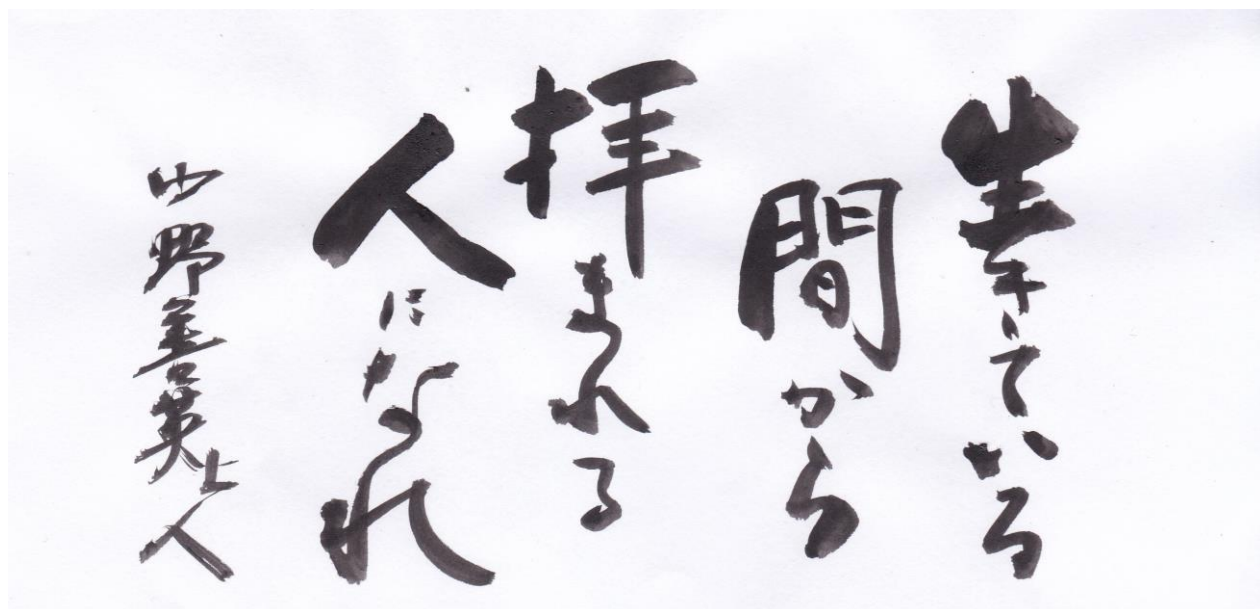
8月24日 初盆精霊送り午後6時～

法要後、境内にて精霊送りを行います。お参り下さい。



浄土宗新聞配る春つらら檀家の笑顔  
われを励ます

奥田  
悦生



亡くなると拜まれて送られるのが世の中だ。善英上人は、生きている間から拜まれる人になれという。インドやネパールのナマステと手を合わせながらする挨拶はあなたの中の神様を拝みますという意味をもっているらしい。まさに拝み合う姿だ。

お釈迦様の聖地を巡拝したとき、衣姿の私に、現地の人たちが近づいてきて手を合わせて挨拶をしてくれた。一緒にいた私服姿の僧侶仲間から、「外国の偉い老僧か」と勘違いして拝んでいるんだ」と笑われたことがある。気恥ずかしく感じながらも、民衆の生活に根差した信仰の深さと敬虔さに身が引き締まる思いを抱いたことが忘れられない。

「拜まれる人になれ」とは、凡夫である私たちが聖人になれということではないだろう。仏さまから拜み返される人になれということなのではないか。南無阿弥陀仏と念仏を称えて仏のみ恵みをいただける人になれ。という、念仏のすすめなのだと受けとめたい。

先日、慶蔵院の本堂で行われた通夜の中で、横井久美子の「風の中のレクイエム」を聴いてもらった。保育園の園長さんとして生き抜いてきた人にふさわしい曲だと思ったからだ。そして参列者の方たちに故人の夢や願い、活動や思いと自分とのかかわりを語ってもらった。横井さんの五十周年記念コンサートに感動し、日本語の勉強に慶蔵院に来ていたベトナムの中高生とも接し、ベトナムにも行きたい。という故人の夢はかなわなかったが、どこかで横井さんと会って長い話をしているのではないかと思えてくる。風のように生きた二人に、ありがとくと拍手を送りたい。

「…ひとつの長い夢を見て ひたすらに生きた…そうさ人生は まるで舞台のようなもの 夢を求め 求めつづけ そして幕はおりる。だから涙はやめて 拍手をおくろう 風のように生きたあの人に 涙の別れは似合わない…」

横井久美子 作詞・作曲「風の中のレクイエム」より